

# 南アフリカのエイズ抑制計画

## South Africa's AIDS plan

Nature Vol.447 (1) / 3 May 2007

論説

エイズ蔓延による国内の危機的状況の解決に向けて、南アフリカ政府がようやく長期戦略計画を打ち出した。

何年にもわたっていい逃れを続けてきた南アフリカ共和国政府が、ついに、自国のエイズ蔓延に対処するための適切かつ包括的な戦略を導入した。160ページに上る計画書では、感染率の低減やエイズ診断の向上と拡充、そして、550万人と推定される国内HIV感染者の治療がうたわれており、4月30日の南アフリカ国家エイズ評議会において正式に承認された。

この計画は、南アの医師やエイズ研究者、エイズ対策活動家たちに喜びをもって迎えられている。彼らは以前から、世界でも最も深刻な状況にある国家のエイズ危機問題に真摯に取り組もうとしないターボ・ムベキ大統領政権に不満を募らせていた。

計画では2つの大きな目標が掲げられている。2011年末までに感染率を半減させること、そして、抗レトロウイルス薬療法の必要な人々の80%にこの治療法が直ちに行きわたるようにすることである。計画全体の予算額は今後5年間で60億米ドル（約7200億円）、そのうち40%が薬剤費に当てられる予定だ。また、計画では予算の半分を民間企業や海外からの援助金でまかなうことを折り込んでおり、南ア政府が残りの半分を負担するという。

南アフリカ保険計理人協会（ASSA）が2006年11月に発表した報告によると、南アではこれまでにエイズで180万人が死亡した。また、抗レトロウイルス薬療法の必要な人々の数は、現在のところ80万～100万人と見積もられているが、実際にこの治療法を受けているのはわずか30万人ほどにすぎない。そのうち3分の2は保健省による治療を、残り3分の1は民間の医療機関や非政府組織（NGO）の手による治療を受けている。さらに、すでにHIVに感染していて、この5年以内に薬剤療法を受ける必要が出てくる人々は相当数に上るとされる。

これまで南アに実効的なエイズ戦略がなかったことのしわ寄せは、HIVに感染して生まれてきた子どもたちに特に向かっていた。国際治療準備連合（ITPC）によれば、抗レトロウイルス薬療法を受けることができれば、およそ20万人の子どもたちがその恩恵にあずかると推定されるが、実際に治療を受けられているのは、そのわずか10分の1だという。原因の一部は、子どもの治療にあたってもついても余計なお役所仕事にある。例えば、HIV検査（抗レトロウイルス薬療法の前提条件となる）を実施するには国民識別番号が必要だという

が、多くの場合、子どもたちにはそうした識別番号がつけられていない。そのうえ、検査や治療にあたって血のつながった生物学的な親の承諾を得る必要があるというのも、問題の1つとなっている。多くの子どもたちは、実際には複合家族内で親以外の近親者に養育されているからである。治療に入る前にこうした諸々の基本手順を踏まねばならない疾患は、ほかにはない。

HIV感染率低下の取り組みは、治療の拡充よりもさらにずっと困難かもしれない。都市部では感染率がすでに下がりがつある。ASSAの見積もりによると、南アの昨年の新たな感染者数は53万人で、年間感染者数が史上最高となった1998年の65万人に比べると少なくなっている。しかし、例えばクワズール・ナタール州のUmkhanyakude地区などの農村部での感染率は依然として高く、エイズに対する一般市民の理解は貧弱で乏しい。

加えて、十分な経験を積んだ医師や看護師の絶対的な不足が、この戦略計画遂行の大きな足かせとなる可能性が高い。多くの医療関係者がムベキ政権のエイズ政策に不満を募らせて公的機関を去ってしまい、場合によっては、国外に出てしまった例もある。

今回の計画は、適用範囲こそ十分に広げたものの、エイズの子防と治療の前に立ちほだかる技術的障害、および官僚主義による障壁に真正面から取り組むところまではいっていない。もう1つの問題は、国家的なエイズ危機について、これまでムベキ政権が国民への啓蒙を怠ってきたことだ。

実際のところ、南アの指導者たちの中にはエイズ問題の重要性を認めようとしないう向きもあり、この点がまだ問題として残っている。しかし、今回この戦略計画の策定に尽力し、ムベキ政権のエイズ政策を是正した現副大統領プムズイレ・ムランボ＝ヌクカ氏は、2009年に任期が切れるムベキ大統領の後継者として有力視されている。2006年8月にトロントで開催された国際エイズ会議で、南アの恥となるようなあきれた発言を行った（非科学的で非人道的なエイズ治療策を述べた）マント・チャバララ＝ムシマン保健相（*Nature* 444: 663; 2006参照）は現在、病氣療養で休職している。もし、ムベキ政権が本腰を入れてエイズに取り組むのであれば、保健相の後任には、ノジズウェ・マドララ＝ルートルレツ健康相代理のような、必要な適性と熱意を備えた人物を任命すべきであろう。 ■